



▲司会進行を務める日本青年会議所の会員

IT技術を活用した
より良いまちづくりを
登別ハッカソンキャンプ

9/19-20

9月19日・20日の2日間、日本青年会議所北海道地区協議会と市は、地域課題解決のためのアプリケーションを開発する「登別ハッカソンキャンプ」を開催しました。登別万世閣を開催本部としてウェブ会議システムで行った本事業には、市内の学生など19人が参加。3チームに分かれて「災害」「観光の魅力発信」「情報発信」のためのプログラム開発に取り組みました。プログラムは、11月までに完成品として仕上げられ、今後の活用について検討されます。

のぼりべつを味わって

登別産豚肉を学生寮で提供

9/22

9月22日、日本工学院北海道専門学校が学生寮で暮らす寮生に、登別産豚肉を使用した豚カツとスパゲッティが一皿になった「スパカツ」を提供しました。

地場産食材を使用した特別メニューを提供するこの取り組みは、昨年度から引き続き2回目。遠方出身の寮生が登別市の農業や食文化に親しみを持つきっかけをつくることに加え、地元食材の消費拡大を目的としています。

肉厚でサクサクの豚カツと熱々のスパゲッティに、お腹を空かせた学生たちも大満足の様子でした。



◀登別産豚肉を使用した「スパカツ」



▲「スパカツ」を食べる学生

みんなで支え合い

登別市はいかい高齢者等SOSネット
フープを活用したはいかい模擬訓練

10/12

10月12日、市内で「はいかい模擬訓練」を開催しました。行方不明の認知症高齢者等を地域の協力で早期に発見し保護するための「登別市はいかい高齢者等SOSネットワーク事業」の取り組みの一つとして、市内6箇所で開催した同訓練。地域包括支援センターの職員らが行方不明者役となり、市が発信した情報をもとに協力機関や民生委員の方たちが声掛けの訓練を行いました。訓練に参加した民生委員の平澤さん（桜木町）は「緊張しました。身近に起こり得ることととらえ、この体験を活かしたい」と万が一の時に備え気を引き締めました。



▲はいかいする高齢者に声掛けする協力機関の参加者



▲ナイフを作る参加者たち

縄文文化にどきどき
登別縄文どきどきまつり

10/2

10月2日、のぼりべつ文化交流館カントレラで「第14回登別縄文どきどきまつり」を開催しました。会場に集まった親子連れなど約130人は、黒曜石のナイフ作りや勾玉作り、火起こし体験など、縄文時代をテーマにした体験プログラムを楽しみました。黒曜石のナイフ作りに取り組んだ小学生は、鹿の角で黒曜石を削って完成させたナイフで早速試し切り。鋭い切れ味に驚きながらも、達成感に満ちた笑顔を浮かべていました。